

## 完了後の評価個表

整理番号	2
------	---

事業名	森林環境保全整備事業	都道府県	北海道
地域（地区）名	留萌 <sup>るもい</sup>	事業実施主体	道、市町村、森林組合、森林所有者
関係市町村	留萌市ほか7町村 <sup>るもい</sup>	管理主体	道、市町村、森林組合、森林所有者
事業実施期間	H23年度～H28年度（6年間）	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	<p>本地区は、北海道の北西部に位置し、天売島・焼尻島<sup>てうりとう やまじりとう</sup>を有する西部は日本海に面し、東部から南部にかけては天塩山地、増毛山地<sup>てしおさんち ましげさんち</sup>が連なり、北部は天塩平野につながる中南部では海岸近くまで丘陵が迫り、河川沿いに平坦地が分布する。</p> <p>計画の対象とする民有林面積は98,050haで、うち人工林面積が32,501ha（人工林率33%）となっている。また、人工林の樹種別構成は、カラマツが10%、トドマツが75%を占め、齢級別面積は11齢級の5,118haをピークに8～12齢級が62%を占めるなど、本格的な利用期を迎えており、利用可能な資源量の増加が見込まれている。</p> <p>そのため、森林資源の効率的な循環利用や多面的機能を総合的かつ高度に発揮させるためには、高齢級間伐の実施や伐採跡地の植栽による適切な保育管理を行う必要となっている。</p> <p>本事業は、森林の有する水源涵養機能<sup>かん</sup>や山地保全機能などの公益的機能を発揮するために必要な造林や間伐などの森林整備を積極的に推進するとともに、これらを効率的に推進するための路網整備を実施したものである。</p> <p>・主な事業内容 森林整備 12,445 ha  人工造林、樹下植栽、下刈り、枝打ち、除伐、  保育間伐、間伐、更新伐等</p> <p style="padding-left: 40px;">路網整備 1,060 m  林道開設</p> <p>・総事業費 4,581,991 千円（税抜き 4,302,837 千円）  （平成22年度の評価時点 3,401,530 千円）</p>
----------	---

<p>① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化</p>	<p>令和4年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>なお、事前評価の算出した総便益及び総費用と完了後の評価で算出した総便益及び総費用との差異については、社会的割引率及びデフレーターの影響であり、事業完了等から特段の変化はない。</p> <p>総便益（B）54,568,297千円（平成22年度の評価時点37,646,370千円※）      総費用（C）11,461,187千円（平成22年度の評価時点6,704,840千円※）      分析結果（B/C）4.76（平成22年度の評価時点5.61※）</p>
<p>② 事業効果の発現状況</p>	<p>更新、保育など889haの森林が整備され、水源涵養や山地保全等の森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。</p> <p>また、路網開設によって、車両が通行可能となり、森林整備事業地までの到着時間の短縮や資材運搬等が容易になった。</p> <p>さらに、森林整備、路網整備事業の発注により雇用の場が提供され、地域の社会経済に貢献した。</p>
<p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p>	<p>森林整備については森林所有者自ら又は森林所有者から経営委託された森林組合が適切に管理を行っており、下刈り等の保育施業を適期に実施している。</p> <p>また、整備された路網は、草刈りや路面の整備等が行われており、適切に維持・管理されている。</p>
<p>④ 事業実施による環境の変化</p>	<p>森林整備の実施により良好な森林が形成され、水源涵養や山地保全等の様々な公益的機能が発揮されている。</p> <p>路網開設による野生動植物の生息・生育環境の悪化、溪流の流量の減少などの影響は見受けられない。</p>
<p>⑤ 社会経済情勢の変化</p>	<p>林業労働者の減少や高齢化により、林業の現場では効率的で生産性の高い作業システムの導入が求められている中、路網整備により作業現場へのアクセス改善や集約化による森林施業コストの低減が図られることで、森林所有者による森林施業の意欲が徐々に高まってきており、持続的な森林経営と間伐等の生産性向上が図られると期待されている。</p>
<p>⑥ 今後の課題等</p>	<p>利用期を迎えた森林資源を活用し、持続的な森林経営を実現していく必要があるが、これまでの木材価格の低迷等により間伐等の実施状況が十分といえない状況であることから、森林施業の集約化や保育作業の省力化など低コストで効率的な作業システムの確立のほか、計画的な森林整備を一層推進する必要がある。</p> <p>地元の意見：      （北海道）</p> <p>森林の有する多面的機能が持続的に発揮されるために、計画的な事業実施が必要である。また、森林施業の集約化を図り低コスト化を促進し森林所有者の林業経営意欲の向上をさせるため、計画的かつ効率的な施業に努める必要がある。</p>

<p>評価結果</p>	<p>必要性： 間伐等の森林整備を通じて、水源涵養機能の発揮及び山地保全等が図られ、地域における水源地や、土砂の流出防止等として重要な役割を果たしており、事業の必要性は認められる。</p> <p>効率性： 森林整備では現地の状況を踏まえた効率的な作業システムにより、また、路網整備では集材効率の悪い箇所に路網を開設することによりコスト縮減が図られており、費用便益分析の結果からも効率性が認められる。</p> <p>有効性： 適切な森林施業の実施により森林の有する多面的機能の維持・増進に寄与している。また、持続的な森林経営と間伐等の生産性向上に向け、地域が一体となった森林づくりの取組が進められていること等から事業の有効性が認められる。</p>
-------------	--

※平成 22 年度評価時点における数値については、消費税を含んだ数値である。

## 便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

都道府県名：北海道

地域(地区)名：<sup>るもい</sup>留萌

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	11,981,405	
	流域貯水便益	3,736,259	
	水質浄化便益	13,936,189	
山地保全便益	土砂流出防止便益	14,420,211	
環境保全便益	炭素固定便益	5,410,478	
木材生産等便益	木材利用増進便益	857	
	木材生産確保・増進便益	4,942,607	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	140,291	
総 便 益 (B)		54,568,297	
総 費 用 (C)		11,461,187	
費用便益比	$B \div C = \frac{54,568,297}{11,461,187} = 4.76$		

# 森林環境保全整備事業 留萌地域（北海道） 概要図

